

表彰状及び感謝状伝達式



表彰状及び感謝状伝達式

6月13日定例会初日の本会議開会前に議場において、本年5月24日に開催された第93回全国市議会議長会定期総会で、市議会議員10年以上の功績に対する表彰状を菊地清一郎議員、山田勇議員の両名に、また、地方行政委員会副委員長の功績に対する感謝状を吉村俊幸議員に授与されたので、寺島議長より伝達された。

歌碑特集

伊達邦成公の歌碑 (長和町小貫邸付近)

噴火湾の対岸に沈む夕日、白衣をまとった駒ヶ岳がその秀麗な半身に刻々と変わる空の色を映し目の前に迫っているようす。この歌碑は長和保存会の手により民家の裏山に建立されている。



(平成元年建立)

伊達基の歌碑 (有珠町丹野邸付近)

有珠町に亘理伊達家の家臣が住んでおり、その方の自宅に邦成公直筆の掛け軸をもとに個人で建立されている。



すなおなる よしにはかかる
枝もなし見よや教の
庭の異竹

(昭和56年建立)



もとい
伊達基の歌碑 (伊達市靈園内 田村顕允の墓の横)

明治から大正、昭和にかけ、日本は文化的にも、経済的にも大きな変貌をとげていった。

伊達邦成の三男として、伊達で生まれた伊達基もそうした激しい時代の流れの中で、生きてきた一人である。学習院卒業後は伊達に戻り語学教授をしていた基だが、明治37年父邦成の亡き後は、養蚕業を奨励し、伊達村の発展に尽力した。大正2年11月に父の右腕だった家老の田村顕允が82歳でこの世を去ったが、基にとって父の偉業を支えてきた顕允の死は大きな悲しみであった。

基は感謝の思いを寄せて顕允が眠る墓の横に詠んだ歌碑が建立されている。顕允が晩年に詠んだ歌は歌碑としてはないが次の歌である。

(田村顕允の歌)

移植えし この民草の霜垣も
むすび得ぬまに 年はくれぬる



(大正4年建立)



もとい
伊達基の歌碑 (旧鹿島神社の跡地付近)

大正4年に大正天皇即位の大典が行われ、伊達村では旧伊達邸庭園開拓記念館開拓記功碑を建て、青年たちが松の植樹をした。このときのようすを基が詠んだ歌である。

大正14年には伊達村は町に昇格した。このときの人口は13,748人となっていた。

※以上、伊達の歌碑をテーマとし取り組んでまいりました。今回の号をもちまして完結とさせていただきます。
途中不手際があり数件のご指摘をいただき訂正させていただいた経緯もありましたが、しっかり読んでいただいていることを身をもって感じました。大変ありがとうございました。
次号からも是非ご期待に沿えるよう頑張ってまいります。

(大正4年建立)



豆知識

まめちしき

1 後援会が花輪・
香典・祝儀など
を出すと処罰されます。

2 議員に対し、寄付を出すように勧誘や
要求することが禁止されています。

3 有権者が威迫あるいは議員をおとしい
れる目的で寄付を求めると処罰されま
す。



※公職選挙法に基づく

パート
2